

# かお・人・interview

2021年10月22日

団体長  
インタビュー



## 地域の守り手である 地域建設業の技術。 次世代への引継ぎ

一般社団法人 福岡市土木建設協力会 会長  
大野太三氏

（一社）福岡市土木建設協力会は、正会員103社、サポーター会員11社、合わせて114社の団体だ。現在3期目となる大野太三会長は、平成28年に就任後、博多駅前道路陥没事故、九州北部豪雨、昨年から続くコロナ禍など、過去に例のない出来事ばかりで緊張の連続だったと語る。地域の守り手として、役割と責任を果たしていく取り組みを、大野会長に伺った。

### 新年度の抱負

地場建設業がコロナ禍を乗り越え、来る「ポストコロナ」の時代において、社会的使命を果たしていくためには、厳しい社会、経済



▲水防訓練

て誠実に、市当局に対しても真摯に向き合いたいと思っています。

### 業務の課題と未来

土木建設業の原点はインフラ整備です。福岡市民の生活環境向上や地域の安全・安心を確保する守り手として貢献することは、与えられた使命でもあり、誇りでもあります。だからこそ建設業を取り巻く環境の変化は避けて通れません。それが、担い手不足の問題です。人材確保に向けて、働き方改革を業界の中で進めるのが急務でしょう。土木はきつい、休みがないという否定的なイメージを払拭して、週休二日、そして給料面での充実などを表に出して、他の産業にも引けを取らない業界として、職業選択のひとつにしてもらいたい。

もう一方で、着手しなければいけないのは、デジタル化の推進です。国交省が2023年までにBIM/CIMを原則適用を決定していますので、県、市町村も対応を迫られます。今年のリモート総会と同じように、一企業では対応が難しくなることも増えてきます。私たちは、現場の力が



▲会長も率先し、飲酒運転撲滅運動街頭キャンペーンに立つ

### 今年度の事業計画

地場建設業団体として、近年の建設業界を取り巻く諸問題の解決に積極的に取り組み、健全で効率的な運営を行いたいと思います。経営、技術・技能の向上を図るため、「会員スキルアップ研修」の継続、福岡県・福岡市の関係機関が開催する講習会・研修会への参加。また、行政との協働にも引き続き力を入れていきます。（1）飲酒運転撲滅運動（2）献血運動（一社）福岡県建設業協会と連携し献血運動を実施（3）インターンシップ（学生就業体験）（4）防災活動等 深刻化する自然災害に対処するため、福岡市と連携し、市民総



▶技術セミナー

低下しないよう、お手伝いをしながらはいいけません。

### 心強いこと

に、当協力は会長直属の「技術研究推進室二十日会」を結成しています。建設業に係る技術や経営に関するセミナーの参加など、主に次世代を担っている二代目経営者の集まりです。事業承継、技術の引継ぎをする担い手たちです。現場はもとより、経営についても強めています。若手同士の結束にもつながり、技術面でも頼りになる存在です。

### 市に対する要望

自治協議会等が実施する防災啓発活動について、防災士グループ・福岡地域防災活動隊（通称EFD）が可能な範囲で支援するなど、地域への社会貢献に努めます。

### 趣味や健康法、特技など

健康には気を使っていますので、以前から人間ドッグは受けています。年齢を重ねてからは、歩くことを心がけるようになりました。とくに週に一度のゴルフはカートを使わず、18ホールを歩きます。通常の生活でも、時間を有効活用してウォーキングを意識しています。車の移動が多いと、自分で意識しないと健康は手に入りません。

また、ストレス解消のマッサージも欠かせません。最近ではドローンにも関心が生まれ、自分で操縦したいと思うようになりました。心体が揃っていると、新しいことへの意欲も生まれます。



PROFILE  
（一社）福岡市土木建設業協会会長。1980年日本大学生産工学部土木工学科卒業後、同年に丸三工業（株）入社。1995年から代表取締役社長に就任。長崎県杵岐市出身 1954年生まれ67歳。

### 協力会の事業

1. 教育・研修・安全（各種講習会等、安全大会等）
2. 調査・研究（技術・技能・経営の向上を図るための調査・研究等）
3. 会員への情報提供（法改正、通達、運用基準等）
4. 行政（福岡市）との協働（防災教室の開催、献血運動等）
5. その他（会員施工現場付近での防災看板掲示の推進等）